⑧

コロナにより感じたこと

小泊中学校　二年　太田　唯翔

僕は、初めて経験するコロナウイルスに、多くのことを感じました。まずこのコロナウイルスが発生したときは「どうせすぐになくなる」と思っていましたが、だんだんと感染者が増え、日本でも増えてきたとき、「これやばくね」と感じました。とうとう青森県にもコロナウイルスが広がり、僕は「青森県に来てしまった」と思い、学校に行くと、先生から学校が休みになると聞き、はじめはとてもうれしかったですが、だんだん休みを重ねると暇になってきて、友達とも遊べなく、家族でどこにも行けず、だんだんと今まで通りの普通の生活が一番良いと思うようになってきました。

でも、この休みによりよかったこともありました。学校に行っていたときにはあまりやることのできなかったゲームをクリアすること

20 × 20

とができ、家族と話す時間が増え、自由な時間をとることができたし、たまに夜更かしをしてゲームをしたり、好きなマンガをたくさん読んだり、料理を作り、家族と外でバーベキューをしたりなど、この休みがあったおかげで、いつもの休みではできないことが、たくさんできました。茨城県にいるおじいちゃんと初めてビデオ通話をしたのも、とても楽しいひと時でした。

そして、今でもこのコロナウイルスと戦っている医療関係の人々のことを思うと、感謝してもしきれないと感じました。いつ感染者が来るかわからないなかで、緊張の連続だと思います。

僕は将来、医療の仕事に就きたいと決意しました。僕は将来薬剤師になりたいので、あらためて自分の夢に向かって勉強などを頑張っていきたいと思いました。

20×20